

平成23年2月24日 宇宙開発戦略専門調査会
京都大学総長 松本 紘

「輸送システム」ヒアリングへの意見

1. 輸送システムの意義

「我が国が必要な時に、……打ち上げを行うために、維持することが不可欠な技術である。」については、もちろん異論はありません。しかし、宇宙開発や宇宙利用を国家の戦略として位置づけるとすれば「必要な時に」という消極的な表現よりも「我が国の宇宙戦略を確実に遂行、発展させるために必要不可欠な技術」として宇宙輸送システムを位置づけるべきと考えます。

2. 基幹ロケット

打ち上げ成功率94%は高く評価したい。しかし、世界との競争、比較の点では

①高価 ②繊細な高度技術 ③打ち上げ機会の少なさを克服する方策として

- 国家の支援（たとえば補助金）は国際的基準から考えてもアンカーテナンシーとして必要。
- 国家的大型宇宙戦略プロジェクト（たとえば宇宙太陽発電所、有人宇宙計画など）

のような長期的宇宙戦略が必要。大型プロジェクトを確実な年次計画で遂行することによって、宇宙技術者の安定的確保を図る必要がある。

3. 将来の輸送システム

安価で大量輸送に適する「再利用ロケット」の開発に着手すべきである。

車で言えば、フェラーリのような高級車だけでなく、安価で信頼性の高い。

むしろ Low Tech ベースの大型ダンプカーに相当するロケットを国家戦略として開発することを明確にすべき。また、空中発射型ロケット投の開発に必要な法制度の改定も早急に取り組むべきである。軌道間輸送機についてはHTVの技術をさらに発展させ、大型貨物、経済性を強く意識して強力に推進してほしい。

4. 射場などのインフラ整備は国家の事業として整備すべきである。

5. LNG ロケットの現状と実験計画の見通しについて資料を提供してほしい。